**ウルグアイ内政・外交（２０１４年１０月）**

1. 内政
	1. 大統領・上下両院議員選挙

ア　２６日，大統領・上下両院議員選挙及び国民投票が実施された。有権者数は２，

６２０，７９１人で，投票率は９０．５１％であった。全開票数は２，３７２，１１７票，

うち２，２９３，７８８票が有効票。開票の結果，いずれの政党候補も有効票の過

半数を獲得できなかったため，１１月３０日に得票数上位２名のバスケスFA候補

とラカジェ・ポウ国民党候補の決選投票が行われる。

イ　選挙裁判所公表の各党候補得票数及び得票率は次の通り（開票率１００％の確

定値）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 政党・候補者名 | 得票数 | 得票率 |
| FAタバレ・バスケス候補 | １，１３４，１８７票 | ４７．８１％ |
| 国民党ルイス・アルベルト・ラカジェ・ポウ候補 | ７３２，６０１票 | ３０．８８％ |
| コロラド党ペドロ・ボルダベリー候補 | ３０５，６９９票 | １２．８９％ |
| 独立党パブロ・ミエレス候補 | ７３，３７９票 | ３．０９％ |
| Unidad Popularゴンサロ・アベジャ候補 | ２６，８６９票 | １．１３％ |
| エコロジスト党セサル・ベガ候補 | １７，８３５票 | ０．７５％ |
| 労働者党ラファエル・フェルナンデス候補 | ３，２１８票 | ０．１４％ |

ウ　選挙裁判所公表の各党獲得議席数は次の通り（開票率１００％の確定値）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　 | 上院獲得議席数 | 下院獲得議席数 |
| FA | １５ | ５０ |
| 国民党 | １０ | ３２ |
| コロラド党 | ４ | １３ |
| 独立党 | １ | ３ |
| Unidad Popular | ０ | １ |
| エコロジスト党 | ０ | ０ |
| 労働者党 | ０ | ０ |

エ　大統領・上下両院議員選挙と同時に実施された国民投票では，刑事罰適用年

齢を現行の１８歳から１６歳に引き下げる憲法改正の是非が問われた。刑事罰

適用年齢引き下げへの賛成票は１，１１０，２８３票で，全有権者の過半数に達し

なかったため，刑事罰適用年齢引き下げは否決された。

　　　（２）政党の動向

 ２８日，コロラド党全国執行委員会（CEN）は，１０月２６日の大統領選挙第一回投票

での同党の敗北を受け，１１月３０日実施の決選投票ではラカジェ・ポウ国民党候補

を支持し，コロラド党員及び支持者に対し，ラカジェ・ポウ候補に投票するよう要請す

すことを決定した。

　（３）世論調査

２６日投票日前に当地主要世論調査会社が実施した大統領選挙の投票動向に関

する調査結果は次の通り。

ア　質問項目：「次の大統領選挙であなたはどの政党に投票しますか」

イ　回答集計結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　　　　　　　　　　　　　　　　　 | FACTUM社 | Cifra社 | EQUIPOS社 |
| FA | ４４～４６％ | ４３．０％ | ４１．０％ |
| 国民党 | ３１～３３％ | ３２．０％ | ２９．２％ |
| コロラド党 | １４～１６％ | １８．０％ | １３．５％ |
| 独立党 | ３～４％ | 　３．３％ | 　２．５％ |
| その他政党，白票，棄権，分からない | ３．２～５％未満 | 　３．７％ | １３．８％ |

　　　（４）政府，議会の動向

 ２１日，定住促進法（法律第１９．２５４号）に基づきウルグアイへの定住申請手続き

を行った最初の家族らに対し，アルマグロ外相が身分証明書等を手交した。同法律

は本年８月に議会で成立，公布されたもので，ウルグアイ国籍者の親族及びメルコ

スール加盟国の国籍を有する者に対するウルグアイへの定住を促進することを目

的としたもの。

1. 外交

（１）要人往来

ア　３～４日，ポルト外務次官，ジェンタ運輸公共事業次官ほかがロシアを公式訪問

した。モスクワ訪問中両次官ほかは，セルゲイ・リャブコフ外務次官らと会談し

た。またGAZPROM EP International社経営陣との会合が行われた。今次ウルグ

アイ政府高官のロシア訪問は，ウルグアイへの投資促進及び深水港建設計画

に関する説明を行うことを目的としたもの。

辞任しなければならないの定住staルト県知事を副大統領イ　３～４日，カミラ・バジェホ・チリ下院議員が当国を訪問した。同議員は３日にムヒ

カ大統領と，４日にロベルト・マルカリアン共和国大学学長とそれぞれ会談した。

ムヒカ大統領との会談後同議員は，ウルグアイにおける無償かつ世俗的・普遍

主義的な教育制度を賞賛した。

ウ　６日，鄭義和・韓国国会議長が当国を訪問し，ムヒカ大統領と会談した。会談で

鄭議長は，韓国は二国間協力及び通商関係の強化，ウルグアイの技術プロジェ

クト及び深水港計画への投資に関心を有していると述べた。

エ　８日，アントニオ・カリカルテ・キューバ外国通商・投資次官が当国を訪問し，ア

ルマグロ外相，ベルガラ経済財務相ほかと会談した。カリカルテ次官はEXPO

ALADI（当地にて８～１０日開催）に出席するキューバ官民合同代表団とともに

来訪した。ウルグアイ・キューバ通商促進メモランダム署名は１１月にハバナで

行われる見込み。

　　　（２）二国間関係

ア　２７日付外務省プレスリリース及び２８日付大統領府プレスリリースは，２６日に

行われたブラジル大統領選挙決選投票に関し，現職のルセフ大統領の再選を祝

福すると発表した。

 イ　３０日，ウルグアイ川浚渫工事開始式典が行われ，ムヒカ大統領，アルマグロ外

相，ピンタド運輸公共事業相，ディアス国家港湾機構総裁，シルベルマン・ウルグ

アイ川管理委員会（CARU）ウルグアイ側代表，ガジョ・リオネグロ県知事他が出

席した。ウルグアイ川及びラプラタ川浚渫計画は２０１０年６月のムヒカ大統領と

フェルナンデス・アルゼンチン大統領の会談後，共同宣言の中で発出され，計画

の具体化は２０１１年３月，CARUに委託された。

（３）メルコスール

 ２０日付大統領府プレスリリースは，第２２回家族農業に関する専門会合（XXII

Reunión Especializada de Agricultura Familiar）が１２月３～５日にモンテビデオで行

われる予定であると発表した。大統領府によれば，同会合にはメルコスール加盟・

準加盟国代表が出席する見込みであり，１５日には農牧水産省にて会合準備協議

が行われた。

（４）国際関係

１日，ウーゴ・カイルス・駐米州機構（OEA）ウルグアイ大使は，インスルサOEA事務

総長に信任状を提出した。カイルス大使は８月２７日に離任したロマニ前大使の後

任として着任。

（５）シリア難民受け入れ

 ９日，ウルグアイ政府は最初のシリア人難民家族を受け入れた。午前１１時３４分，

５家族４２人が警察学校のバスで，当面の滞在先となるモンテビデオ郊外のマリスト

修道会施設に到着した。

報道によれば，付近住民はウルグアイとシリアの国旗やプラカードを用意するな

ど歓迎ムードである。難民到着後，ムヒカ大統領，アルマグロ外相，エルリッチ教育

文化相，ガリバルディ教育局長，オリベラ・モンテビデオ県知事らが訪問し難民を歓

迎した。ムヒカ大統領は「シリアの子供達は雨の降らない国からやってきて，サッカ

ーを楽しんでいる。また，ブラジルなどの大国も，我々に続き，シリア人難民を援助

する方策をとらなければならない」と満足げに記者に対して発言した。

　　　（６）ALADI

 ８～１０日，モンテビデオにてEXPO ALADIが開催された。ALADIの発表によれば，

加盟１３カ国から６００を超える企業が参加した。８日の開会式にはムヒカ大統領，ア

ルマグロ外相，ベルガラ経済財務相が出席した。開会挨拶でムヒカ大統領は，ラテ

ンアメリカの統合に企業が果たす役割の重要性等について演説した。

1. 社会

　　　（１）治安関係

 ア　受刑者出所に伴う犯罪の増加

 　　グアルテッチェ警察庁長官によれば，今年に入ってから刑期を終え出所した元受

 　　刑者数が３千人（うち６百人以上が強盗）に上り，その５０パーセント以上が再犯

 　　者である。再犯に関するデータとして犯罪別では，薬物は９０パーセント以上，強

 　　盗は５０パーセント以上である。

　　　 イ　治安に関する世論調査結果

 当地主要世論調査会社の一つであるFACTUM社の調査によれば，国民の３１

 　　 パーセントが国内主要問題として治安問題を挙げている。

　　　 ウ　防犯カメラの設置状況

 　　警察はパソ・モリノ地区の商店街に防犯カメラを設置した。また，無人機「ドロ

　　　　　　　　ーン」によるカメラ警備も開始となった。

　　　 エ　警ら強化

 　　モンテビデオ県内で発生する強盗事件で，犯行後犯人らが近くの不法居住地

 　　へ逃走するケースが多く確認されていることを受け，同県警が同所周辺の警

 　　ら強化を開始した

（２）その他

２日，ラテンアメリカ統合連合（ALADI）臨時会合が開催され，エステラ・デ・カルロト

「五月広場の母」代表，アルマグロ外相が出席した。今次臨時会合はカルロト代表

を「ラテンアメリカの傑出した市民」 （Ciudadana ilustre de América Latina）として称

えるとのALADI代表者委員会の決議に基づいて行われたもの。会合では軍政期行

方不明者及び「五月広場の母」運動に関するビデオ上映が行われ，アルバレス事

務総長，アルマグロ外相及びALADI加盟各国代表が演説した。またムヒカ大統領

及び作家のエドゥアルド・ガレアーノからの同代表宛メッセージが読み上げられた。 同代表は会合の最後に演説し，「これ以上，決して行方不明者を出してはなりませ

ん」（Nunca más）と締めくくった。（了）